

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ふぁみりえに住む入居者と家族の尊厳や願いを最大限尊重し、その人らしい人生の継続の支援をさせて頂くというふぁみりえ独自の理念を念頭に置き、地域の方々にもふぁみりえの事を知ってもらえるよう情報発信したり、交流をしたりと、地域で支える街づくりに貢献していくよう理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員のオリエンテーションや新人研修の他、勉強会などを利用して理念や方針について話し合う場を持ったり、日々のケアの場面場面や行事、その他の取り組みの中で職員へ示して理念の実践に向けて取り組んでいる。また定期的に会議を行っている。	○	もっと個々の職員に、日常でのケアプラン作成の場面をとらえて伝えていく必要がある。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	定期的に家族向け通信や地域向け通信を発行し、ふぁみりえの取り組みや認知症について情報発信している他、3ヶ月に1回の家族会、2ヶ月に1回の運営推進会議、とにかくきてみてテラス等で家族や地域の方にふぁみりえの理念、方針を常に伝えている。	○	家族や地域との交流（餅つき・カレーの店・防災訓練・赤ちゃんママさん会など）を通して、今後も理念の浸透に努める。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の公園への散歩や敷地フェンス越しの挨拶など心がけている。散歩中の方に声をかけたり、お祭りなどへの参加も積極的に行っている。地域交流センターを活用し「カレーの店」を行っている。	○	もっと多くの方と触れ合えるように工夫を行っていききたい
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	はやめ南人情ネットワークを通して地域住民との交流の機会を得て出かけていったり、老人クラブ主催のふれあい祭りの場の提供、実行委員としての参加、地域の清掃活動、小学校の行事など積極的に参加している。近所の保育園からの訪問など交流の回数は増えてきている	○	出来る限り地域に出て交流を行っているものの、その機会は限られている。今後は更に地域との繋がりが日常的になるように支援していきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室や、地域推進会議の開催、絵本教室などの取り組みを行なっている。地域交流センターを利用し、「カレーの店」「赤ちゃん&ママの会」などを行っている。また、駿馬南人情ネットワークの事務局として地域の一員として入り、地域高齢者の誰もが安心して暮らせる町づくりが出来るよう情報交換をしながら模索している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	すべてのスタッフにより自己評価をし、意見を反映させている。また、日々のケアを見直す機会としている。	○	評価において、改善に向けて取り組んでいる事実はあるが、結果が伴っていない内容もある。より、具体的に取り組む必要があると感じている。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回報告を行ったうえでご意見やご提案を真摯に受け止めサービスの向上に努めている。また、入居者の皆様との交流の場としても活用しており、その中で意見交換を行い、サービスに反映させている。	○	各スタッフへの周知がまだ不足していると思われる。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あんしん介護相談員や市役所からの研修を受け入れるなどし、ありのままの状態を見ていただくなかで、ご意見いただいている。市内全体の認知症ケアの向上を目指して常に協働している。また市からの視察研修の受け入れや行事などへの参加も積極的に呼びかけ日常的に情報共有を図っている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開き制度への理解は深めていっている。	○	勉強会の機会・職員の理解共に不足している。今後活用のサポートが出来るよう家族会などで勉強会をもつなど進めていきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	サンフレンズ全体として、虐待防止のための組織を作っている。また、自主勉強会や、グループホーム協議会での勉強会にも参加し、各職員も何が虐待に当たるか勉強し、虐待防止に努めている。	○	日々のケアの中で、小さな事でも気付いたら話し合いをもち言動や行動について虐待の可能性はないか注意をしていきたい。また、もっと意識を高めていく機会を増やす必要がある。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間かけ説明、理解、納得を図っている。その後も随時補足、説明、相談に応じ、理解が深まるようにしている。ホーム長・管理者が対応をとっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で出た不満に対しては、傾聴をおこない 管理者へ報告したり、ケアに反映させてい る。また、あんしん介護相談員を受け入れ、入 居者が相談できるようにしている。	○	入居者の表面に出ない意向についてもくみ 取れるよう、センター方式(C-1-2)を活 用するなどしていきたい。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	定期送付している家族向け通信や家族会を通し て報告したり、メール・電話・来家時に報告す ることにより、家族とパートナーシップをとっ ている。	○	長年の関わりの中で、伝えているつもり、 分かって頂いているつもりになっていない か反省している。そこでもう一度家族会 でじっくり対話をしたり、個別のフォロー をしていきたい。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を行い、ご家族からの意見をいただく場 を設けている。意見が出た場合は真摯に受け止 め対応を行っている。玄関口に「ちょっと一言 メモ」を置き、BOXを設置している	○	とはいえ、家族は出しにくいので、個別にこ ちらから時間を作り、フォローしていきたい。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	ふぁみりえ会議・ユニット会議・リーダー会議 での意見交換の場を設けている。また、会議 以外でも日常的に職員間でのコミュニケーション が取れるように努力している。	○	運営者・管理者だけでなく、スタッフ間に おいても、より一層コミュニケーションを 図っていく。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	入居者や家族の状況変化や要望、行事や受診 等、必要な時間帯に応じた勤務体制や、勤務調 整をしている。	○	常に十分とはいえない。スタッフの人数だ けでなく、質的な確保も含めて施設として 積極的に取り組む必要がある。
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るよう、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット制をとり入居者にダメージが少ないよ うにしている。また、時には他のユニットから の応援体制を取ることで他のユニットのスタッ フとも顔見知りになれるようにしている。退職 者に関しては、入居者に花束を渡していただく 等、きちんと挨拶できるよう配慮している。	○	職員の確保が難しくなり、年々異動の必要 性も多様化している。努力をしながらも、 異動によるダメージについて、特に受け持 ちの利用者・家族への対応をきめ細かくし ていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	常に人権の尊重や公平性を意識して採用に当たっている。また個々の特徴や個性にも目を向け、介護の持つ専門性や人と人との関係性などを考慮している。職員がただ働くというばかりでなく社会参加や自己実現を図れるような機会作りや動機付けを重視している		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修会・セミナーなど広報し、職員が参加できる環境をつくっている。法人全体として人権、ノーマライゼーションの思想を職員への啓発と同時に地域啓発活動に力を入れている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、実践者リーダー研修・東翔会リーダー研修など長期的・計画的に取り組んでいる。また、資格取得の研修も施設全体の教育研修計画として立案し実施している。	○	個々の職員の計画的トレーニングについて検討している段階にある。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や認知症ケア研究会等の研修所参加や、ふぁみりえへの研修受入などで、意見交換の場や学びをもらっている。また、はやめ人情ネットワークや徘徊ネットワークを通して、地域の同業者との協働を得られている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員のストレスからくる変化に目を向け、個別に声をかけたり、職員内のコミュニケーションや親睦を図る機会を作ったりしている。	○	各職員の日々のストレスや共通の趣味などを気軽に話し合える場を増やしたり、気軽に話せる相手ができるようなチーム作りをする。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回職員の実績を点検し把握している。また運営への積極的な参加、個々の特徴や希望に応じた役割分担、学会発表や先進GHの研修などさまざまな形で動機付けを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームのスタッフや入居者の皆様との馴染みの関係を作る為に、自宅訪問・体験利用や通所を行い、本人との交流を行っている。その中で本人とじっくり向き合い、訴えを受け止めるようにしている。また、生活史質問リストを活用し、出来るだけ本人理解のための情報収集を行っている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の段階からご家族と接する場を多く持ち、意向などをきくようにしている。また、入居前にはお宅訪問なども行っている		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談担当部門のソーシャルワーカーとホーム長、管理者、ユニット担当者が十分に話し合いを行い、利用者本人と家族のニーズに応じたサービス提供を行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	なじみの関係ができるようにご家族と相談しながら体験利用やデイ・泊まりの利用を本人のペースに合わせて状態を見ながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に基づき、入居者対職員ではなく、人対人の関係性を持って、共に生活している	○	本人の力の発揮の場面づくりに乏しい部分がある。良かれと思ってつい職員が行っている事が、本人の力を奪う事を十分認識し、力や願いを引き出しながら、支えあう関係を築いていきたい。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には近況・状況を随時報告し、ご家族からの情報なども記録におとし、スタッフが情報を共有できるように勤めている。また、年間を通して季節行事(旅行・誕生会等)への声かけを行い、時間の共有を図っている。	○	ご家族とよりコミュニケーションを図り、グループホームだけでケアに当たるのではなく、ご家族と共にケアに当たれるよう、パートナーシップを深めていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家族との手紙のやり取りをしたり、来家の際には楽しい・リラックスした時間が過ごせるよう空間の確保に配慮している。旅行や外出など、ご家族も一緒に行動できる機会を設けている。	○	症状の進行や変化をとらえ、どのような時期であっても、本人と家族の絆が深まるような支援の場をつくる。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、友人への年賀状や家族への手紙の支援、美容室の利用や信仰の寺院への参拝など、馴染みや習慣が継続できるようケアプランに盛り込んでいる。	○	一部の入居者に限られてきている。遠方に住んでいる家族・親戚・友人などに関しても疎遠にならないように支援していきたい
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	お一人お一人の、時々的心身状況を見極めながら、時に職員が間に入り、共にケアしあう関係作りに努めている。	○	入居者間のトラブルも多い。事故につながらないように、状況を見極めていく。また、重度化や状態の変化に伴い、それまでの関係が保てなくなりつつある為、それぞれの入居者にアプローチしていく必要がある。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後も情報交換を行い対応を行っている。また、契約時には退居後も再入居できることを伝えている。亡くなられた場合も入居者と一緒に墓参りに行くなどしている	○	全ての職員が、このことの大切さを認識できるように、日頃から伝えていく。また、時間が経つにつれ薄れないよう注意していく。
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活史シートなどを活用し、生活の継続に努め、対話の中からの情報を記録におとし、共有、実践し家族にも相談している。	○	本人の声や思いをセンター方式（C-1-2）を活用しながら再確認していく。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活史リストを作成。本人の理解に勤めている。また、ケアマネなどと情報交換を行うことで本人の入居前の状況などの情報を得るようにしている	○	入居時に聞き取れなかった情報もあるので、家族介護教室の際や、親族の集まり場の際などにご家族に協力していただき、更なる情報の収集に努める。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の生活リズムが継続出来る様支援を行なっている。また、入居後もその方の出来ない事ではなく、出来ることに視点を置き支援している。	○	個々の入居者の基本ケアの見直しを図り、その人ならではの一日の過ごし方を再模索していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホーム独自のケアプランを用い、担当を中心に一人お一人の人生・生活・習慣といったところにまで目を向け、ご家族・ご本人によりアセスメントし介護計画を作成している。	○	独自のケアプランシートに留まらず、センター方式の活用・理解を進め、より入居者本位の介護計画の作成に取り組んでいきたい。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度評価・見直しを行い、ご家族とも話し合い理解を得ている。また、時々による状態の変化に応じて、チームで話し合い、介護計画に追加している。	○	時々の変化に応じて、随時追加・見直しを行ってはいはるものの、やや後手後手になっている部分がある。介護計画への追加を適時行えるよう取り組んでいきたい。
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に日々記録をし、スタッフ間で情報共有に努め、見直しに活かしている。	○	まだ、介護計画への反映の点で努力する必要がある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型デイサービスを通して、入居者の馴染みの関係作りに活用している。入居者のご家族が遠方より来家され、そのまま宿泊となっても適宜対応している。また、外出時にも同様に対応おこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	はやめ南人情ネットワークや運営推進委員メンバーの方を中心としながら地域住民・民生委員等いつでも気軽に来ていただき行事等を通して入居者の生活を感じてもらっている。また防災に関しても地域住民の方にも協力していただいている。近くの小学生・中学生との交流も深まってきた。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況・状態に応じて訪問看護、ドクターとの連携を計っている。また、サービス移行の際には、移行先事業者と十分話し合いを行い、スムーズにご本人の生活が継続できるような支援を行っている。	○	地域交流センターきてみてテラスや、5月より小規模多機能ホームみえあむが近くに事業開始されるので、介護保険内サービスに止まらず広く地域資源を活用した支援を行っていきたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までは頻度は少ないが財産管理の問題や友人が身元引受人だったケースもあり、地域包括支援センターと連携し支援に当たっている	○	基本的にグループホームの利用者は認知症であり判断力低下の状態にある為、権利擁護や成年後見制度の利用、また、在宅生活利用者の場合は地域との関係作りなど、今後も地域包括支援センターとの連携を重視していきたい。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お一人お一人にかかりつけ医があり、情報交換を密にしながら、往診や受診も定期的に行っている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医による往診やカンファレンスをおこなっている。また、必要時や定期的に専門医のいる病院の受診を行っている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員常勤や法人内の看護職との連携を図り、共に相談しながら入居者の健康管理・医療活用の支援を行っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医・グループ病院以外への入院の際も、互いに情報交換できるよう努め、本人へのリロケーションダメージの軽減や生活習慣の継続ができるようにしている。また、そのような連携が図りにくい医療機関も現実としてあり、そのような場合には、職員が来院し、入居者への支援を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取り支援の指針があり、日常生活の中で、本人の思いや希望を察知すると共に、重度化した場合においては本人・ご家族の希望を最大限尊重しながら、ホームにおける限界も十分ご理解頂いた上で、希望に沿いながら安心して過ごして頂けるよう、最善をつくしている。終末期には、主治医・ご家族を交え、数回に渡り確認書を交わし、共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームだからできる事、医療機関だからできる事を柔軟に見極め、グループホームにいる事が必ずしも最善ではない事を理解した上で、ご家族を含めたチームとしての支援に取り組んでいる。今後起こる変化に関しても、繰り返し話し合いを行い準備している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	書面による情報提供だけに止まらず、馴染みの職員が本人と共に、移り住む前の段階から数回に渡り同行し、新しい場所への関係作りに努めている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム独自の理念やケア方針の下、尊厳を守りながらケアにあたっている。	○	職員の行動や何気なく発した言葉を、入居者がどうとらえるのか意識しながら、本人を脅かさないうように努めていきたい。また、居室へ入らせていただく際にも、ご本人へ確認・了解を得る等、そのような事さえも気配り・心配りを忘れず対応していきたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	様々なコミュニケーション技法を使いながら、本人の意思・希望を引き出すよう努めている。	○	知らず知らずの内に、クローズクエスチョンばかりになっていないか、納得して頂くつもりが説得になっていないか。現状に満足せず職員のレベルアップに努める。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の主体は、入居者の方である事を常に意識し、お一人お一人のペースに合わせたアプローチを行っている。また、日常と非日常を使い分け、本人のその時々にあった過ごし方・ケアのあり方に努めている。	○	行事など、スタッフサイドで決めている事が時としてある。職員が決めた事であっても、一つ一つ丁寧に入居者の皆さんへ自己決定・自己選択のアプローチをしていく心がけていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時や入浴準備時など、本人へ着用する衣類の選別・確認を取っていただけるよう声かけを行っている。また、行きつけの理美容へもご家族対応にて外出される入居者もおられる。それ以外の入居者の方は、訪問美容院を活用しながら本人の希望に沿えるよう努めている。	○	その人らしく人生を継続していく為に、とても重要な事だととらえている。基本ケアの見直しを図り、今後も一つ一つ丁寧に行ってきたい。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活の主体者である入居者に、できる力を発揮して頂きながら、食事作り・盛り付け・片付け等に関わって頂けるよう支援している。また、週1回のペースでメニュー決め・買い物・調理・片付けなど、主体的にかかわって頂いている。食事をとる時間を決める事はせず、食べたい時間にずらすなど、臨機応変に対応している。	○	関わる入居者が限られている事がある。偏りのないよう、個々の利用者がその日となりに楽しんで力を発揮できるよう取り組んでいきたい。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居前からの本人の嗜好・習慣が継続できるように支援している。特にタバコについては、防災に配慮しながらも続けていただけるようにしている。	○	10時・15時の飲み物を、数種類の中から選んでいただけるよう努めていきたい。
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、入居者の排泄パターンを把握・薬を使わなくても自然に排泄できるよう努めている。それでも排泄が見られない場合には、パターンに合わせて薬の使用も行っている。また、介助に入らせていただく際も、羞恥心に十分配慮している。	○	薬を使用するのが当たり前になりつつある。薬を使用する前の段階で、工夫していく必要がある。水分摂取に関しては、担当を中心に取り組んでいく。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に、入居者が入りたいときに入れるよう準備している。また、曜日などにより指定する事もしていない。訪問看護の入浴サービスのみ時間帯など決まってはいるものの、その時の本人の希望がなければ見送っている。	○	入浴剤を使用する時も、入居者に選んでいただくなど工夫していく。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不眠時に暖かいココア等を提供したり、空腹時にちょっとした食べ物を準備するなど、その時々のお一人お一人の状況に応じて、必要なものが提供できるよう努めている。	○	パジャマに着替えて眠る事やリネンが整っている事が、入居者の方に心地よく入床していただく手段の一つになるととらえ、ベットメイク・カバーの装着など、生活習慣を尊重しながら行っていくよう取り組んでいく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居以前からの生活習慣をホームにおいても行えるよう支援している。また、散歩や外出など、季節に応じて行っている。	○	お一人お一人の張り合いや喜びという部分を十分に考えていく必要がある。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度化などにより、ご自分で管理する事が難しい入居者の方でも、支払いのみ行ってもらうなど、何らかの形で力の発揮を行えるよう努めている。	○	お金を所持する事や使う事を、より深く認識し、出来るだけ長くご本人の力を維持していただけるよう努めていきたい。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ本人の希望に沿えるよう努めているが、周囲の状況などによって、その瞬間に十分添えない事もある。また、公園や別ユニットへの散歩、公民館や自宅への外出など、気候の良いときに心がけ支援している。	○	個々の利用者の希望に応じてもっと場面を増やしていく。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人やご家族の希望を元にプランを作成し、日帰り・一泊旅行や冠婚葬祭への出席など行えるよう支援している。	○	個々の利用者支援できるよう頻度や場面作りを増やしていく。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人への手紙や電話など、本人の希望に応じて支援している。また、希望の訴えがない時でも、ご家族を近くに感じていただく手段の一つとして活用している。	○	訴えがない=する必要がないではなく、力の発揮につながる為、もっと活用していく必要がある。日常の写真なども大いに活かしていきたいよう取り組んでいきたい。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	きてみてテラスでの取り組みを通じてなど、馴染みの方との交流ができるよう意識している。また、自由に入出入り出来る様に、面会時間を決めておらず、来家の際には空間作りにも配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で身体拘束廃止委員会を設置しとりくんでいる。身体拘束は行っていない。が、言葉の抑制や態度での抑制に関しては全くないとはいえない。	○	身体拘束は行っていない。が、言葉の抑制や態度での抑制に関しては全くないとはいえないのではないかと。個々の職員の意識を高めていくよう取り組んでいきたい。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	21時～7時までは防犯上の理由で門扉を閉め玄関には鍵をかけている。しかし、日中は鍵を閉めることはない。居室の鍵に関しては入居者個人で鍵を管理されている方は、日中も自室の鍵をかけられることがある		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	理念の一つであるアクトオブバランスにそって、常に一人一人のプライバシーを大切に、入居者の方の気分を害しないよう監視にならないよう配慮し、所在や様子の把握をし、安全に心掛けている。また、スタッフ同士の声掛け連携で、こまめな所在確認に努めている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や洗剤など危険物にかんしては、マニュアルに添って保管管理を行っている。その他に関しては、本人の症状や特徴に合わせた環境整備を行っている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書・ひやりハット報告書を活用し、何か起きた場合は必ずケアカンファ及びミーティングを行い同じ事を繰り返さないようにしている	○	報告書やカンファレンスを全職員が共有し、意識を高める必要がある。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	母体施設での研修への参加・AEDの使い方の講習などを行っている	○	しかし、すべての職員が同じような対応は出来ない。今後も研修会が必要である

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月15日を防災の日として避難シュミレーションや環境整備を行っている。年2回(1回は母体施設と1回はふぁみりえ独自)の防災訓練では地域の皆様にも協力いただき実際に入居者の皆さんと避難訓練を行っている。また運営推進会議の場においても積極的に災害に関してのご意見をいただいている	○	毎月15日の防災の日における防災ミーティングを通して、常に防災への意識を保つよう全職員で意識付けをおこなっている。今後も徹底していく。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族が来られた際には必ず担当スタッフからの日常生活の報告などを行っている。体調不良時など緊急な事はその都度電話連絡を行っている	○	個々の利用者の抱えるリスクは、認知症の進行や時々々の体調・状況によって常に変化する事をスタッフが認識し、それを踏まえご家族と共通の意識の元、ケアにあたるよう努める。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルサインだけに頼るだけでなく入居者の普段の状態を知っておくことで体調の変化に早めに気付くようにしている。発見した場合は看護職員へ速やかに報告対応を取っている	○	個々の利用者の日頃の状態を十分把握し、いつもと違った行動・状態にいち早く気付くよう、職員の視点をフルに活用していきたい。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが熟知しているわけではなく知らないスタッフもいる。薬剤情報はファイリングしていつでも確認できるようにしている。	○	ヒューマンエラーの発生原因は薬に対する認識不足だと考えている。前スタッフでの意識付けを引き続き行っていくことが重要だと考える
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄パターン・排便の状態を把握しているが下剤を使用している事もある。食事などを通しての便秘対策に努めていきたい	○	飲食物の味や形状の工夫・日常的な運動をすることで自然な排便ができるよう引き続き支援を行っていく
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その方の生活習慣に合わせて支援を行っている。歯磨きができない方に関しては口腔ケア用スポンジの使用や口腔内保湿ジェルを使用している。歯科による往診も行っている	○	生活習慣に合わせてケアを行っているが食後に口腔内に残渣物が多く毎食後は磨きまたはうがいが必要な方がいる。そのような方に対する支援を丁寧に行っていきたい

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して水分・食事をチェック表にて各スタッフが確認しながら無理なく、しかし十分に摂取していただけるように支援している。また飲水量が少ない方に関してはゼリーなどをつくり提供している	○	量や形態だけをチェックするのではなく、個々の入居者がその人らしく食せるよう、環境・状況にも更に配慮し続けたい。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会を中心としてマニュアルにそった対応や、情報の共有を図り予防に努めている。また、インフルエンザ予防接種やうがい・手洗い、手指消毒など、入居者に無理のない範囲にてできるだけ実行している。また、来家される皆様へ玄関の張り紙等にて周知を図り、感染源を持ち込まないよう努めている。	○	スタッフが感染源となり、入居者の生活を脅かさないよう、常に健康管理に努めながら予防・対策をとっていききたい。また、感染症に対する知識を深める機会を増やしたい。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒マニュアルにそって食中毒の予防に努めている。また、食中毒が流行する時期においては、調理器具や布巾の消毒・食品の管理を特に徹底している。	○	今後も食中毒の発生防止に努めながら、食中毒に対する知識を高めていきたい。
は					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	中庭に咲いている季節の花を入居者と共に活け玄関に飾ったり、ベンチを置き安心して靴を履きかえられるような工夫をしている。また、玄関ホールのスペースを活かし、和やかな雰囲気作りに努めている。	○	玄関のガラスが透けている為、少々施設的ではある。今後、暖簾などを利用しながら、もっと家庭的な雰囲気となるよう工夫していききたい。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ちょっとした音(食器を片付ける音・足音・ドアの開閉音・TVなど)が、入居者にとって不快になる音だと認識した上で配慮しているが、十分とはいえない。	○	入居者の生活を脅かさないよう、スタッフ全体が共通認識を持ち、知識を深める機会を増やしていききたい。また、日常的に意識しながら対応していききたい。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を細かく分け、入居者一人ひとりが好きな場所でゆっくりと出来るように工夫している。	○	まだ、活用できていない場所もあるので、さらなる工夫が必要。テラスなどの活用も検討していく

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅を訪問し使い慣れたものを持ってきていただいている。が、十分ではない。	○	認知症のステージにあった空間を提供する必要がある。が、物をなくすのではなく工夫が必要。新たな情報を取り入れながらさらに居心地がいい空間を作れるようにしていきたい
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室に関しては毎朝の換気を心がけている。しかし、においに関しては不十分なことがある。温度調節に関しては入居者が不快に感じないように注意し冬場は加湿にも気を配っている	○	何がにおいの原因かを考えこまめに掃除等行う。トイレや居室の洗面台などの水周りは特にきかけて掃除を行う。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード面で足りないところはソフト面で工夫し対応している。	○	しかし、さらに入居者が安心・安全に生活できるような工夫が必要
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗により、入居者がどのような気持ちになるかという点を、十分理解した上で、トイレへの張り紙や居室の表札、主な出入り口におけるドアチャームの使用など、混乱や失敗を出来る限り防ぎ、自立して暮らせるよう支援している。	○	十分とはいえない。今後も、個々の入居者の力にあった方法で創意工夫し、症状の変化に応じたケアを提供させていただきながら、その人らしく安心して暮らせる生活を支援していきたい。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑を作ったり、実のなる木を植え収穫するなどして活用している。	○	居室前の小庭に関しては、本人の嗜好に合わせた活用を検討していき、入居者の生活の潤いにつなげていきたい。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設当初より、入居者やご家族と馴染みの関係をつくりながら、少しずつ信頼関係を結び”いつまでもその人らしく”人生を継続していただけるよう取り組んでいる。また、はやめ南人情ネットワークを通して、地域との関わりが深く、併設の「きてみてテラス」を活用しカレーの店を出したり、テラスへ散歩に行ったりしながら、地域住民との交流に力を入れて取り組んでいる。また、職員が認知症ケアについて学ぶ機会がおおく、他GHやさまざまな事業所との交流・連携を図っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ふぁみりえに住む入居者と家族の尊厳や願いを最大限に尊重し、その人らしい人生の継続を支援させて頂くという独自の理念と、地域にも情報発信し、地域で支える街づくりに貢献していくという理念掲げている。また、地域と共に歩いていけるよう支援を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長や主任により、理念についての勉強会を行ったり、新人研修会や、リーダー会議、ふぁみりえ会議、ユニット会議で理念の共有や意識の統一を行っている。また、日頃より理念を照らし合わせてのケースカンファなど行っている	○	もっと個々の職員に、日常でのケアプラン作成の場面をとらえて伝えていく必要がある。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ふぁみりえ通信や地域向けの通信を使っての発信や、はやめ人情ネットワーク等の地域の行事参加、家族会の実施、地域交流センターきてみてテラスでのカレーの店などの取り組みをしている	○	行事以外にも、ケアプランを通して家族に伝えていく事が大切であると考えている
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	向う三軒両隣など「はやめ人情ネットワーク」への参加や、徘徊ネットワークの取り組み活動などに努め、地域の方と触れ合う機会を作っているが、まだ本当に身近な所付き合いには不足していると思われる	○	もっと気軽に立ち寄れたり、総合交流の場や機会を提供できるよう、ふぁみりえを開放していく（入居者と共に菜園作りができる等）
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ふれあい芸能祭の参加や日曜茶話会、公園清掃、カップ祭り、夏祭り等地域の行事に積極的に参加すると共に、ふれあい祭りやカレーの店、餅つき、防災訓練などのふぁみりえやサンフレンズでの行事参加と協力をお願いしている	○	出来る限り地域に出て交流を行っているものの、その機会は限られている。今後は更に地域との繋がりが日常的になるように支援していきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方と運営推進会議などを通して、入居者も参加した話し合いをしたり、「はやめ人情ネットワーク」ふぁみりえの役割を見つけて参加している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己点検を行うことで、自分のケアの見直しや気づきを得ており、自分を振り返る良い機会に成っている。又、改善点への取り組みにより、質の向上を図っている。	○	出来る限り地域に出て交流を行っているものの、その機会は限られている。今後は更に地域との繋がりが日常的になるように支援していきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ふぁみりえの活動内容の報告を常に行っており、評価への取り組みについても報告や話し合いの場を持っている。又、入居者の参加もあり、入居者の意見の繁栄されており、運営推進委員の協力を得ながら、入居者の願いが現実化されている。	○	各スタッフへの周知がまだ不足していると思われる。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や町とは連携を取っており、研修への参加や協力をし合っている。認知症ケア研究会・地域コミュニティー・認知症コーディネーター・事例報告会等		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度についての外部研修や自主勉強会を行っている。また、必要な利用者については事業所として支援している	○	勉強会の機会・職員の理解共に不足している。今後活用のサポートが出来るよう家族会などで勉強会をもつなど進めていきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サンフレンズ全体として、虐待防止のための組織を作っている。また、自主勉強会や、グループホーム協議会での勉強会にも参加し、各職員も何が虐待に当たるか勉強し、虐待防止に努めている	○	日々のケアの中で、小さな事でも気付いたら話し合いをもち言動や行動について虐待の可能性はないか注意をしていきたい。また、もっと意識を高めていく機会を増やす必要がある。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ホーム長、管理者、ユニット担当者にて一つ一つの項目について、十分時間を持って説明を行い、家族への理解・納得を図っている		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の暮らしの中から聞かれた不満・苦情 は管理者に報告しており、家族を含めて話 し合いがなされケアに反映している。その 結果は、運営推進会議や家族会で報告を 行っている。又、安心介護相談員も定期的 に来られ意見を頂いている	○	入居者の表面に出ない意向についてもくみ 取れるよう、センター方式(C-1-2)を活 用するなどしていきたい。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	ご家族が来家された折には、日々の報告を 行っており、来家される頻度の少ないご家 族には、電話やメールにて報告し、情報の 共有を図っている。しかし、情報の共有は 図っているが、常時来られないご家族に関 しては、まだまだ報告やフォローが不十分 だと思える	○	長年の関わりの中で、伝えているつもり、 分かって頂いているつもりになっていない か反省している。そこでもう一度家族会で じっくり対話をしたり、個別のフォローを していきたい。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情やちょっと一言書いて頂けるよう、箱 を設置しているが、なかなか活用されてい ない。しかし、ご家族の来られた折には、 意見やご指摘を頂けるよう常にお願いをし ている	○	とはいえ、家族は出しにくいので、個別に こちらから時間を作り、フォローしてい きたい。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	ふぁみりえ会議・リーダー会議・各ユニ ット会議を通して意見交換の場があり、お互 い意識統一を図っている。また、日々の業 務の中でも、できるだけ話し合う時間を設 けている		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	入居者や家族の状況変化や要望、行事や受 診等、必要な時間帯に応じた勤務体制や、 勤務調整をしている	○	常に十分とはいええない。スタッフの人数だ けでなく、質的な確保も含めて施設として 積極的に取り組む必要がある。
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要に応じての異動は避けられないが、常 に入居者第一であることを考慮し、必要最 小限で行い入居者へのダメージを軽減して いる。また、別ユニットであっても入居者 や職員との交流や関わりを持つようにして いる	○	職員の確保が難しくなり、年々異動の必要 性も多様化している。努力をしながらも、 異動によるダメージについて、特に受け持 ちの利用者・家族への対応をきめ細かくし ていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	常に人権の尊重や公平性を意識して採用に当たっている。また個々の特徴や個性にも目を向け、介護の持つ専門性や人と人との関係性などを考慮している。職員がただ働くというばかりでなく社会参加や自己実現を図れるような機会作りや動機付けを重視している		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修会・セミナーなど広報し、職員が参加できる環境をつくっている。法人全体として人権、ノーマリゼーションの思想を職員への啓発と同時に地域啓発活動に力を入れている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、実践者リーダー研修・東翔会リーダー研修など長期的・計画的に取り組んでいる。また、資格取得の研修も施設全体の教育研修計画として立案し実施している。	○	個々の職員の計画的トレーニングについて検討している段階にある
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グリープホーム協議会や認知症ケア研究会等の研修所参加や、ふぁみりえへの研修受け入れなどで、意見交換の場や学びをもらっている。又、はやめ人情ネットワークや徘徊ネットワークを通して、地域の同業者との協働を得られている		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員のストレスからくる変化に目を向け、個別に声をかけたり、職員内のコミュニケーションや親睦を図る機会を作ったりしている。	○	各職員の日々のストレスや共通の趣味などを気軽に話し合える場を増やしたり、気軽に話せる相手ができるようなチーム作りをする。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回職員の実績を点検し把握している。また運営への積極的な参加、個々の特徴に応じた役割分担、学会発表や先進GHの研修などさまざまな形で動機付けを行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前から、職員による自宅訪問やふぁみりえへの通いの利用をして頂きながら、ゆっくり時間をかけて話しをして、本人の気持ちをよく聴く機会を作って共感する努力をしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人だけでなく、ご家族の願いや希望、不安なども十分に話しが出来る状況を作っており、信頼関係が築けるように努力している。又、ご家族を含めてサポートしていくよう努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や職員だけでなく、居宅支援センターや相談センターの職員と連携し、必要な支援について共通理解、共通意識を持ち、必要なサービスや支援を提供している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に限らず、デイサービスの利用時にも、少しずつ馴染んでもらえるよう、時間や場所を職員で工夫しながら、リロケーションダメージを軽減出来る様努めている。入居後も自由に家に帰れるよう、ご家族とも協力してもらいながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にする事で、同じ気持ちで喜怒哀楽を共有したり、昔ながらの知恵を学ぶ機会もあり、勉強させて頂く事が多い。	○	多くのものを学ばせてもらっており、人として、福祉人として豊かに成長させて頂いている(自己の成長)
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と誕生会や旅行、祝い事など、話しをする機会をなるべく多く持ち、同じ時間を共有出来る様に努力はしてる。	○	ご家族との関係作りに努めているが、病気や症状の理解の面で、難しいところもある。症状の進行や、重度化に応じて、個別の支援をしていく必要がある。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会や家族介護教室などの機会を持ち、認知症やグループホームの理解を深めて頂けるよう努めている。また、なかなか来家出来ないご家族に関しては、手紙や写真、電話での会話にて支援していると共に、イベント・行事の参加依頼を行っている。	○	普段、来られないご家族との情報交換がまだ薄く、ご家族との関係作りを大切にし、本人とより良い関係作りが築いていけるように努める必要がある。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前勤められていた職場の恒例行事や、馴染みの場所などに出掛けたり、手紙での交流など行い、馴染みの人や場との関係継続が出来るよう最大限に努めている。	○	支援に努めているが、全入居者にいつでも出来ている訳でもないので、入居者にとって馴染みの関係をもっと理解し、途切れない支援を続けていく必要がある
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	入居者同士の関係性を大切にしている。入居者同士の関わりを通じて、本人の持っている能力の発揮の場となれるように支援している。	○	入居者同士も二番目の家族であることを、各職員が認識する事も必要
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、その家族の必要性、学んだありがたさを感じながら、関係作りの継続を行っている。家族会や行事ごとの声掛け、亡くなられた入居者の法事やお参りに行く。	○	全ての職員が、このことの大切さを認識できるように、日頃から伝えていく。また、時間が経つにつれ薄れないよう注意していく。
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、思いや意向の把握に努めており、願いや意向を抽出出来た時には、その願いが最大限叶えられる様、各担当・ご家族と話し合い、入居者主体の支援に努めている	○	できる限り努力はしているが、まだ不十分であると思われるため、入居者の思いを大切にした声掛けにも気配りをしていく
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から、本人やご家族や前利用事業所から、出来るだけ情報を集めて、それに基づき、暮らし方・生活環境（生活史や人生史）の把握に努めている	○	なかなか全入居所の馴染みの暮らしの継続が出来ているわけでは無いので、今後も継続して取り組む必要がある

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録やケアプランシート、日々の関わり等から、状態の把握に努めている。状況に応じてカンファレンスなど開き、状況の把握や意識統一に努めている。状況変化の著しい入居者については、24時間シートを利用する事により細かく把握できるよう努めている	○	情報心身シートを含めたケアプランを頭に入れてのケアや24時間シートを使って、一人一人の現状把握に努めているが、まだまだ全面的な活用が出来ていない。個々の入居者の基本ケアの見直しを図り、その人ならではの一日の過ごし方を再模索していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランを評価し、ご家族に確認了承をした頂くだけでなく、ご家族の意見や希望も取り入れるよう、柔軟に対応している。又、状態変化に応じて、ケアプランの追加作成を行いケアに取り組んでいる。状況次第では、主治医や他職種の見解も反映させている	○	勤務の都合上や、緊急的なときは、必要な関係者が全て揃って出来ているわけではないが、意見を聞ける状況は作っている
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回のケアプランの見直しを行い、家族会の時に説明や意見をもらってケアプランに反映させている。	○	センター方式を活用することで、本人中心のケアの再確認をする。日々の複雑な学びの中であっても、定期的なケアカンファレンスがもてるよう、チームで努力していく。
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア、支援、関わりからの気付きや変化、状態像が分るように記入するだけでなく、各スタッフで情報を伝達している。更に分りやすくケアプランへ反映できるよう、記録類の工夫改善も行っている	○	個別記録の記入や情報の共有を行っているが、まだケアプランとの関連性が反映できていない部分がある
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	D.S事業、外出外泊への支援、ご家族の宿泊など、本人やご家族の希望に添えるように支援を行っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要性に応じて支援が出来ている。グループホーム行事への地域の方々の参加を始め、徘徊ネットワーク・はやめ人情ネットワーク・防災訓練・運営推進委員の参加と協力など。また、近くの小学校や中学校との交流も深まってきた。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況・状態に応じて訪問看護、ドクターとの連携を計っている。また、サービス移行の際には、移行先事業者と十分話し合いを行い、スムーズにご本人の生活が継続できるような支援を行っている。	○	地域交流センターきてみてテラスや、5月より小規模多機能ホームみえあむが近くに事業開始されるので、介護保険内サービスに止まらず広く地域資源を活用した支援を行ってきたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターとの協働にて、権利擁護の勉強会や、家族の意向にや本人の必要性に応じて、支援が行われている。	○	基本的にグループホームの利用者は認知症であり判断力低下の状態にある為、権利擁護や成年後見制度の利用、また、在宅生活利用者の場合は地域との関係作りなど、今後も地域包括支援センターとの連携を重視していきたい。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医のつながりを大切にし、継続した関係作りに努めている。また、かかりつけ医のいらっしやらない入居者に対しては、本人ご家族と話し合った上で、納得して頂いたかかりつけ医との関係作りを行い、適切な医療を受けられるよう支援している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門性のある医師との信頼関係を築きながら、情報提供を行い、医師からも診断やアドバイスを頂いている。また、状態に応じては、国立病院などより高度な診断への機会も提供し支援している。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現場にスタッフとして看護師がおり、馴染みの関係や信頼関係を構築しながら、健康管理を行っている。また、看護師の専門性や技術を現場スタッフにも反映出来るように、技術や知識を習得できる相互関係を作っている。その他にも、訪看やサンフレンズケア局看護師との協力も得て観光管理に努めている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中はなるべく職員が入院先へ出向き、不安やダメージの少ないように努めている。病院関係者とも情報交換を行い、また、ご家族とも入居者の立場に立って相談しながら、早期退院に向けて努力している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取り支援の指針があり、ご家族のから本人の意志やご家族の意思確認のアンケート等頂き、本人の状態の変化に伴い、本人・家族・かかりつけ医・ホーム長・担当スタッフと繰り返し話し合いを行い、重度化や終末期に向けて意思確認しながら、全員で方針を共有し支援に取り組んでいる。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームで出来る事出来ない事を話し合いながら、かかりつけ医とも連携を取り合って支援に努めている。少しでも変化があれば、かかりつけ医に連絡し指示をもらったり、往診や短期入院など検討し支援をしている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の生活の様子を家族や本人から情報を頂いたり、自宅訪問もして今までの生活により近い環境作りに努めている。リロケーションダメージを最小限に抑えることが出来るように、通いを通して馴染みの関係を作ったり、家族とケア関係者間で情報共有を行っている		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人としての尊厳、誇りを傷つけないように日々心掛けています。好ましくない声掛け対応などある場合には、「気づき」を通してケアの向上に努め、カンファレンスやユニット会議にて、事例を挙げて振り返りながらより良いケアに努めている。	○	まだまだ居室に入る際の声掛けや、細やかな気配り、心配りの必要性はある。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ケアカンファや会議を通して、加齢に伴う心身状態や、認知症症状の変化に合わせてセルフとヘルプを見極め希望や自己決定がなされるように入居者主体の観点から支援をしている。会話の中から本人の思いや希望が表せるようにや、意思決定して行動できる支援。	○	スタッフ全員がもっと入居者主体の暮らしを追求していく必要がある。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に入所者主体と言う事を念頭におき、その時々において一人ひとりの体調やペースに合わせて、思いや希望を最大限に尊重している。	○	基本的な見直しと共に、その人なりの過ごし方について点検する。本人の希望がくみ取れない時等、まだ職員主体になっているため、もっと本人主体に支援する必要がある。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣の際は本人に確認したり本人が選んだものを着用して頂くと共に、季節や外出に応じた服装の支援に努めている。理美容に関しても、本人や家族の希望に応じ支援し、行きつけのない方や歩行状態を考え訪問の理美容も利用している。	○	まだ十分でない。その人らしい姿であるか、基本的ケアの見直しを行う。爪切りなども含め、常に細かい所まで行き届くようにケアしていく。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かして、食事作りから片づけまでを行うと共に、希望されるメニューの決め、食材を買いに行き楽しみにつながるよう工夫をし取り組んでいる。	○	買い物に出掛ける入居者の偏りや、状況に応じてはスタッフ側で提案している場合もあるため、入居者主体になるようもっと支援していくよう心掛ける。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	趣味や嗜好を日常の会話の中から、楽しみやストレス発散の一つとして希望に応じて支援している。必要な時は、スタッフが見守りながら支援をしたり、家族からも情報を得て楽しみにつながるよう支援している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けしながらトイレ内の排泄や失敗の軽減を心掛けている。また、排便のコントロールが難しい入居者においては、飲み物や食事の工夫も行っている(野菜ジュースや牛乳など)		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴できる準備をして、本人が望む時に入浴できるよう支援している。入浴を拒否される入居者の方については、本人が楽しく入浴出来るような声掛けを工夫している。	○	入浴拒否される入居者に対しては、まだ上手な声掛けが出来ていない事もあり。その方の入浴習慣やタイミングに合わせて、気持ちよく入浴出来るよう声掛けを見つけていく。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	これまでの本人のペース、リズム、生活習慣の継続が出来るよう支援している。その日の過ごし方によっては、疲れや体調を見て声掛けを行いながら、本人の望まれる時間に入床出来るようにしている。	○	天気の良い日の布団干し等、気持ちよい布団の準備や居室の掃除の強化を行う。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	長年培ってきた生活歴を尊重し、日々の生活に活かしながら、生活の張りや役割作り、楽しみとなるよう支援している。	○	スタッフ主体と成っている事もあり、もっと一人ひとりに目を向けて、生活の中に役割を取り入れていく。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事で本人の安心した生活につながっている場面も多く、外出での買い物に限らず、訪問販売等も本人持ちのお金で自由に購入されている。また、入居時からお金の管理が出来ない入居者に関しては、施設で預かり必要時にお渡しし使って頂いている。	○	徐々に管理出来なくなられた方の支援が難しくなっており、一人ひとりの力に応じた支援を見つける必要もある。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じた外出の支援は、歩行困難な方の車椅子での外出や散歩の含め最大限に応じているが、その日の職員や入居者状態、天候により希望に応じられない場合もある。	○	入所者が希望通りに外出できるよう、臨機応変に対応出来る様努力したい。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の会話の中や運営推進会議、家族との会話等を通して、一人ひとりの思いを尋ね、行って見たい所の希望を出せる機会を持ち、家族や地域の方と共に外出・外泊が出来るよう計画をして実行している。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時や、その時々に応じ、電話や手紙のやり取りが出来ている。出来ない方に関しては、スタッフより状態を報告したり、写真のやり取りを行っている。	○	全員の入居者にいつも出来ている訳では無いので、訴えがない入居者に対しても、もっと支援する必要があると考える。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	様々な方がいつも気軽に訪問出来る様な雰囲気作りや、本人とゆっくり過ごせる空間や時間作りを心掛けている。また、居室だけでなく、小居間やホール・レラス等も過して頂ける様工夫をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で身体拘束廃止委員会を設置し取り組んでいる。身体拘束の自主勉強会や外部での研修会の参加にて、正しい理解を身に着けるよう取り組み、ケアに生かせるよう努めている。また、身体拘束のファイルが常に確認できる様になっている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関以外の場所も日中鍵をかけることは行っておらず、どこからでも自由に入出入り出来る状態になっている。夜間の居室ドアに関しても、本人が鍵をかける以外は、職員で施錠することはない。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	理念の一つであるアクトオブバランスにそって、常に一人ひとりのプライバシーを大切に、入居者の方の気分を害さないよう配慮し、所在や様子の把握をし、安全に心掛けている。また、スタッフ同士の声かけ連携で、こまめな所在確認に努めている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や洗剤など危険物に関しては、マニュアルにそって保管管理を行っている。その他に関しては、本人の症状や特徴に合わせて環境整備を行っている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの症状や特徴に合わせて、リスクマネジメントを行っている。また、緊急時マニュアルや自主勉強会を利用しての知識の収集や、火災に関しては、火元に確認を実施している。	○	日々の記録を必ず読んだり、注意事項をスタッフ間で共有し、スタッフ一人ひとりの自覚が必要である。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会や救急対応の講習会の参加をして、技術や知識の習得を行っている。またいざという時のために、緊急時対応マニュアルを用意している。新人スタッフへ新人教育で行う。	○	自主勉強会を定期的に行って、知識や技術の習得を行うよう心掛ける。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月防災ミーティングを行い、知識の習得やシュミレーションを行っている。毎年、施設全体での防災訓練は、家族・地域の人々・消防等の協力の下に技術の向上を図っている。また、日頃より一人ひとりに合った非難の仕方を想定しながらケアに当たっている。	○	毎月15日の防災の日における防災ミーティングを通して、日頃からイメージトレーニングをし、常に防災への意識付けを行っていく。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	早め早めにご家族に起こりえるリスクの説明や相談を行い、対応策を話し合っている。また、ケアプランにも挙げ、情報を共有しながら、ケアに努めている。	○	しかし、リスクだけではなく、基本理念やケア方針も常に話す機会を持ち、入居者の自己意思や願いを尊重した暮らしの支援をしていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの状態の変化異変への観察に努め、少しでも体調変化があれば、上司、看護師を含め全員で情報を共有し、すばやく医療従事者やかかりつけ医に報告し、指示をもらっている。	○	看護師だけでなく職員全員が、入居者一人ひとりの日頃の状態を十分把握し、状態変化の早期発に努める。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書や看護師の説明にて、薬に対する知識や、医師からの副作用に対する注意事項など、情報を共有している。	○	まだまだ薬の理解については、看護師を中心とした勉強会を行うとともに、スタッフ一人ひとりの自覚を必要とする。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	看護師と連携して、早めの対応を行っている。便秘が引き起こす、身体的、精神的症状を勉強会を通して理解するよう努めている。日頃から、排泄チェック表を用いて、食物や飲み物の工夫など行い散歩などのお誘いをしたりして取り組んでいる。	○	まだ全員にいつも身体を動かす働きかけが出来ていない事や、またチェック表に記載していない入居者についても確実な体調の把握が出来るように努める。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きの声掛けを行ったり、本人が出来ない方に関してはスタッフが行ったりしているが、身体機能の高い方に関しての方が出来ない場合もあるため、その方に合った声掛けの工夫が必要である。	○	声掛けの工夫やタイミングを見ながら、確実に口腔ケアが出来よう働きかけをする。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は、チェック表を通して把握し、不足傾向にある方には無理ない程度にアプローチを行っている。栄養バランスは、メニュー製作時に管理栄養士によりチェックしてもらっている。	○	入居者の状態や習慣に応じているが、特に刻みやミキサー食の方の食事は、食欲低下につながらないように、味や見た目にも工夫する。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会の指示により、マニュアルにそった対応や、情報の共有を図り予防に努めている。予防接種、うがい、手洗い、消毒など、小まめに実行している。	○	スタッフが感染源とならない様に、常に健康管理に努め、また、感染症に対する知識もさらに深めながら、予防や対応をしていく。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、前日と当日に配達され、冷蔵庫や冷凍庫での保管がされている。食事準備の際は、スタッフが見分けながら使用しており、調理器具に関しても、アルコール消毒や、夜間中ハイター消毒の対応にて殺菌し、衛生管理に努めている。	○	日頃から、台所の掃除や整理整頓を心がけ、食中毒の予防に努める。また、食中毒に関しての勉強も行なっていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	汚れやゴミが無いように、施設の顔としての意識を持ち、環境整備を含め日々清潔感あるように努めている。また花を植えたりして景観も整えている。ハード面に関しては、極めて入居者の方にとっても、安心して利用しやすい工夫がなされている。	○	入居者と一緒に作った花壇を、いつも季節の花で飾れるよう手入れしたり、家族や近隣の人達にも意見をもらいながら、安心して利用しやすい玄関作りの工夫に努める。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に相応しい様に、音・光・スピード・声のトーンなど常に入居者に合わせるよう心掛けている。季節の花を飾ったり、カーテンや家具、入居者の書かれた書などを飾り、居心地よい空間作りに努めている。	○	スタッフの話し声や笑い声、台所の片付けの音など気をつけるようにしている。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの場所は気の合った入所者同士で自然に定着しておられ、安心して過ごされている。また、ホール以外でも、色々な場所で過ごされるように支援し、他の入所者より少し離れた空間作りをしているが、工夫次第でもっと空間を生かせると思う。	○	新小居間、小居間、ソファの工夫や利用、環境づくりに努める。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人やご家族とも相談し、馴染みの家具や物を自由に使って頂き、一人ひとりに合わせての雰囲気作りを行っているが、まだ工夫が必要な居室もある。	○	殺風景な居室もあり、居心地よく過ごせるように、工夫を重ねよう努める。
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節や天気、温度に合わせて調節し、室温・湿度・衣服の調節を行っている。空気入れ替えなども行い、お香やファブリーズなどの消臭剤などの使用もしている。	○	ずっと中に居ると鼻が慣れてしまっていることもあり、外から入って来たスタッフは気配りをして気付いた点を伝え対応していくことも努める。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫はしているが、スタッフサイドで過度な介助に成っている場合もある。ハード面のつくりを活かして、一人ひとりの持っておられる能力の発揮に心掛ける。	○	手すりの近くに物を置いたりせずに、安全の確保に努める。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表札やトイレの張り紙をして、本人の持っている力を活かせるように、工夫している。	○	自己資源の発見へつながるよう支援する。スタッフ間の情報の共有や連携を行って、環境づくりに努める。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周、テラス、庭園などを趣味だけでなく、一息つきながらリラックス出来る時間や空間として活用している。また、場所や、収穫物を利用して、様々な活動が出来るよう支援している。家族会などのイベント毎や天気の良い日にテラスや庭での食事や、公園でも食事を楽しんでいる。	○	ベランダの周りにも花を植えたり、庭園の手入れをしていく。また、家族で一緒に楽しめる様な空間作りを考える。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設当初より、入居者やご家族と馴染みの関係をつくりながら、少しずつ信頼関係を結び”いつまでもその人らしく”人生を継続していただけるよう取り組んでいる。また、はやめ南人情ネットワークを通して、地域との関わりが深く、併設の「きてみてテラス」を活用しカレーの店を出したり、テラスへ散歩に行ったりしながら、地域住民との交流に力を入れて取り組んでいる。また、職員が認知症ケアについて学ぶ機会がおおく、他GHやさまざまな事業所との交流・連携を図っている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【 I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者とその家族の尊厳や願いを最大限尊重し、その人らしい人生の継続を支援させて頂くというふぁみりえ独自の理念を念頭にケアを行っている。また地域の方々にもふぁみりえの事をよりよく知ってもらえるように情報発信をしたり、交流をしたりと、地域で高齢者の生活を支える街づくりに貢献していくよう理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勉強会などを利用してホーム長や主任が主体となり、ふぁみりえの理念や方針について話し合う場を持ったり、また日々のケアの場面場面や行事、その他の取り組みの中で職員へ示して理念の実践に向けて取り組んでいる。	○	理念や方針については今まで以上に職員個々での意義付け、またその共有が必要である。そのために職員同士で日々のケアの中で理念を実践し、入居者がより良い日々を暮らすことができるよう話し合いながら取り組む。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	定期的に家族向け通信や地域向け通信の発行を行い、ふぁみりえの取り組みや認知症について情報発信している他、3ヶ月に1回の家族会、2ヶ月に1回の運営推進会議、きてみてテラス、はやめ南人情ネットワークへの参加等で家族や地域の方にふぁみりえの理念、方針を常に伝えている。	○	家族や地域との交流（餅つき・カレーの店・防災訓練・赤ちゃんママさん会など）を通して、今後も理念の浸透に努める。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設に併設したホームである為、隣近所とはあいさつ程度であるが、同じ地域との付き合いはふぁみりえの行事に声掛けして来て頂いたり、地域の行事に参加したりして日常的な付き合いができるよう努めている。	○	地域の特定の方々との付き合いは日常的になったが、その人数は増加しておらず、今まで以上に地域の行事などに足を運び、地域の方にふぁみりえの事を理解して頂けるよう、いろんな方と日常的な付き合いができるようにしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りやイベント、また公園清掃など入居者の状況に応じて出来る限り足を運び、地域の方と交流を行っている。	○	出来る限り地域に出て交流を行っているものの、その機会は限られている。今後は更に地域との繋がりが日常的になるように支援していきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	はやめ南人情ネットワークの事務局として地域の一員として入り、地域の高齢者の誰もが安心して暮らせるまち作りが出来るよう、情報交換をしながら模索している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表をもとに職員全員で点検を行い、改善すべき点、前年度に外部評価で見出された課題はユニット会議などで改善策を話し合い、改善に努めている。	○	自己点検により改善が必要と思われる課題の改善に向けて日々努力しているが、十分に改善されていないところもあるため、確実に実行していきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。ふぁみりえの取り組みや、今後の計画を報告、いろいろな意見やアドバイスを出してもらい、サービス向上に努めている。委員と入居者や家族が交流できる場にもなっている。	○	各スタッフへの周知がまだ不足していると思われる。また、毎回、運営推進会議へふぁみりえの入居者も参加して頂いているが、より多くの入居者が参加できるように努力していきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内全体の認知症ケアの向上を目指して常に協働している。また市からの視察研修の受け入れや行事などへの参加も積極的に呼びかけ日常的に情報共有を図っている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度については、専門知識を有する地域包括支援センター職員を招き勉強会を開催して学んでいる。	○	勉強会の機会・職員の理解共に不足している。今後活用のサポートが出来るよう家族会などで勉強会をもつなど進めていきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サンフレンズ全体として、虐待防止のための組織を作っている。また、自主勉強会や、グループホーム協議会での勉強会にも参加し、各職員も何が虐待に当たるか勉強し、虐待防止に努めている。	○	日々のケアの中で、小さな事でも気付いたら話し合いをもち言動や行動について虐待の可能性はないか注意をしていきたい。また、もっと意識を高めていく機会を増やす必要がある。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際してはホーム長、管理者、ユニット担当者が一緒に本人や家族に十分に時間かけ説明、理解、納得、同意を図り、その後も随時、補足、説明、相談に応じている。理念や方針については具体例を挙げて説明している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	あんしん介護相談員が定期的に来家し、入 居者が意見を言いやすい機会を設けてい る。また行事や運営推進会議など地域住民 との交流の場を通して本人や家族が外部者 と触れ合う機会を提供している。日々の暮 らしの中で出た不満などは管理者に報告 し、ケアに反映している。	○	他にもセンター方式シートを使用するなど して利用者の意向や不満などを引き出し運 営に反映できるように取り組んでいきたく い。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	家族が来家した際には、近況報告、預かり 金の確認等を担当職員を中心に行ってい る。入居者の急変時や遠方に住んでいる家 族には電話にて様子を報告している。また 、定期的に家族会の時に報告したり、 ホーム通信を発行して現状や課題などを報 告している。	○	長年の関わりの中で、伝えていたつもり、 分かって頂いているつもりになっていない か反省している。そこでもう一度家族会で じっくり対話をしたり、個別のフォローを していきたい。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を行い、ご家族からの意見をいた だく場を設けている。意見が出た場合は真摯 に受け止め対応を行っている。玄関口に 「ちょっと一言メモ」を置き、BOXを設 置している。	○	とはいえ、家族は出しにくいので、個別に こちらから時間を作り、フォローしてい きたい。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	リーダー会議、ユニット会議、ふぁみりえ 会議などを通して職員の意見や提案を聞く 場を設けている。また会議の場でもなく 日常的に職員間のコミュニケーションの機 会を重視している。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	入居者の生活スタイルに合わせて出勤時 間の調整を行うとともに、職員の人数も考 慮している。また、行事参加など事前に日 程が決まっていれば、スタッフ数を調整し 、入居者が行事に参加できるよう取り組 んでいる。	○	常に十分とはいえない。スタッフの人数だ けでなく、質的な確保も含めて施設とし て積極的に取り組む必要がある。
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	急な応援や異動があることに備えて日頃 からユニット間の職員の相互交流を行いな がら、入居者とのなじみの関係をつくれ るように配慮している。	○	職員の異動があった場合も、時折なじ みの入居者に合う時間、機会を作ってい きたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	個々の特徴や個性にも目を向け、介護の持つ専門性や人と人との関係性などを考慮している。職員がただ働くというばかりでなく社会参加や自己実現を図れるような機会作りや動機付けを重視し、人権の尊重や公平性を意識して採用に当たっている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修会、セミナーなど広報し、職員が参加できる環境をつくっている。法人全体として人権、ノーマリゼーションの思想を職員への啓発と同時に地域啓発活動に力を入れている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や実践研修、リーダー研修、ケアマネジメント研修など、随時状況に応じた研修トレーニングを受ける機会を設けている。	○	個々の職員の計画的トレーニングについて検討している段階にある。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業同士の意見交換や勉強会等にて外部との交流を図っている。認知症ケア研究会活動を通してネットワーク作りを行っている		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員のストレスからくる変化に目を向け、個別に声をかけたり、職員内のコミュニケーションや親睦を図る機会を作ったりしている。	○	各職員の日々のストレスや共通の趣味などを気軽に話し合える場を増やしたり、気軽に話せる相手ができるようなチーム作りをする。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回職員の実績を点検し把握している。また運営への積極的な参加、個々の特徴や希望に応じた役割分担、学会発表や先進GHの研修などさまざまな形で動機付けを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	体験利用や通い、ショートステイを通して、利用者本人との時間をつくり、本人の気持ちや不安、意向などを引き出し、向き合えるようにしている。また、生活史質問リストを活用し、出来るだけ本人理解のための情報収集を行っている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の段階でご家族と話し合う機会を多く持ち、認知症について理解して頂いたり、家族の気持ちや不安、意向を十分に聴くようにしている。また家族や利用者本人宅への訪問も行っている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談担当部門のソーシャルワーカーとホーム長、管理者、ユニット担当者が十分に話し合いを行い、利用者本人と家族のニーズに応じたサービス提供を行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と協力し合い、初めは体験利用やデイサービス、泊まりの利用などを組み合わせ、入居者や職員となじみの関係をつくり、なじみの場所となるよう対応しながら、利用者本人が安心して入居できるように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の暮らしの中や入居者のアクティビティの場面で、入居者が感情を表現しやすいような場作りや声掛けを行い、入居者の方から学んだ事や手伝っていただいた事等には心から感謝の言葉を伝えている。	○	アクティビティや季節の行事、普段の何気ない会話から入居者の感情を探り、共に生活している“家族”として心の支えとなっていきたい。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が持つておられる入居者の思いを大切に、入居者の日々の暮らしの支援について一緒に悩み、一緒に喜びと、家族と職員が一緒になって本人を支えていくよう努めている。	○	本人を思う家族の気持ちは心に秘めておられることが多く、その気持ちを少しずつ汲み取り、一緒に悩みを解決していきたい。家族にもっと安心していただけるよう、これまで以上に関係を深めていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃の様子などを家族に定期的に伝えたり、また日々のケアを行う中で家族の協力が不可欠な部分は、本人の思いや家族の負担を考慮しながら協力を仰いでいる。家族会や行事の機会に家族との良い時間を持てるよう配慮している。	○	症状の進行や変化をとらえ、どのような時期であっても、本人と家族の絆が深まるような支援の場をつくる。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの隣人、友人、知人の来家などでこれまで大切にしてきた人々との交流は今も続いている。	○	少しずつ以前のなじみが薄れていかないよう、なじみの方に時折連絡を行うなどをして支援していきたい。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え癒えるように努めている	状況に合わせて、入居者同士が楽しく過ごせる関係を支援している。食卓テーブルの座る位置や団欒時など、配慮している。	○	もっと入居者間が互いに支えあう・助け合う場面作りをしていく。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去した入居者や家族にも家族会やその他ふぁみりえの行事の際には声をかけ来ていただいたりして、関係を保っている。	○	全ての職員が、このことの大切さを認識できるように、日頃から伝えていく。また、時間が経つにつれ薄れないよう注意していく。
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人が思っていることを主体としたケアプランを作成し、入居者一人ひとりの思いを大事にしている。	○	今一度、入居者一人ひとりと向き合い、思いや希望を確認していきたい。例えばセンター方式C-1-2等を活用し、本人の気持ちを再確認し、支援していきたい。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にその方の自宅を訪問して、ご家族から生活の様子を伺ったり、ご家族に生活史や生活習慣等の情報をシートに記入して頂き、ファイルにまとめている。また本人からも普段の会話の中からどのような暮らし方をしていたか等を聞き出し、把握に努めている。	○	十分活かしきれていない。把握し、共有し活かす取り組みをしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々記録やセンター方式アセスメントシートの情報シート、24時間アセスメントシート、自己資源シートなどを活用し、入居者の現状を把握し、定期的に更新している。また、アクティビティ等を通して、出来る事、出来なくなってきている事を探り支援している。	○	個々の入居者の基本ケアの見直しを図り、その人ならではの一日の過ごし方を再模索していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議や日々のケアの中での入居者の思いを汲み取り、家族の願いや希望、主治医や専門ドクターの意見を参考に、本人主体の介護計画を作成している。	○	独自のケアプランシートに留まらず、センター方式の活用・理解を進め、より入居者本位の介護計画の作成に取り組んでいきたい。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画の見直し評価を行っている。3ヶ月以内に本人の状態が変化する場合は、その都度ケアカンファレンスを行い、プランの見直しを行っている。	○	ケアカンファを出来るだけ多く持てるようにしたい。
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録にケアプランと付随しながら記録をし、気づきや実践結果を残す事で職員間の情報共有を行い、ケアプラン見直しの際に活かしている。	○	介護計画の実践結果としての記録が少ないので、職員一人ひとりが記録の書き方を学び、日々記録がケアに活かせるようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	平成18年度から共用型デイサービスを通して、体験利用や入居前のなじみづくりなどに活用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練では、消防や地域の方の協力を得て行っている。また小学校や中学校の職場体験の受け入れや学習発表会などでこちらから学校に足を運んだりなどの交流を通して普段から連携を取っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況・状態に応じて訪問看護、ドクターとの連携を計っている。また、サービス移行の際には、移行先事業者と十分話し合いを行い、スムーズに本人の生活が継続できるような支援を行っている。	○	地域交流センターきてみてテラスや、5月より小規模多機能ホームみえあむが近くに事業開始されるので、介護保険内サービスに止まらず広く地域資源を活用した支援を行って生きたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までは頻度は少ないが財産管理の問題や友人が身元引受人だったというケースもあり、地域包括支援センターと連携し支援にあっている。	○	基本的にグループホームの利用者は認知症であるため判断力低下の状態にある為、権利擁護や成年後見制度の利用、また、在宅生活利用者の場合は地域との関係作りなど、今後も地域包括支援センターとの連携を重視していきたい。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望したかかりつけ医を最優先している。入居時にかかりつけ医や緊急時の希望を事前に確認し、適切な医療を受けられるよう支援している。また、家族の意向や状況に応じて受診や往診などの支援を行っている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者のかかりつけ医が精神科の専門医ということもあり、協力関係は築けている。また必要に応じて協力をして積極的に受診をしたり、他の精神科医とも協力関係にあり、カンファレンス等での助言や指示を受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護資格を有する職員もおり、また隣接する同法人の看護師、同法人の訪問看護ステーションの看護師の協力を得て、入居者のリハビリや健康管理に努めている。協力関係にある看護職員と、ふぁみりえの理念やケアプランの共通理解を図っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が一時的に入院した場合は入居者が安心して過ごせるようこまめに訪問したり、また看護サマリー等で本人の普段の状況や特徴等を病院側に伝えている。またできるだけ早期に退院できるよう医療機関と綿密に話し合い退院計画を立てている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取り支援の指針をもち、職員、家族、主治医の共通理解を働きかけている。また契約時点で重度化や終末期についての家族と本人の希望を聞いており、そのような時期になった場合、再度、家族、職員、主治医と繰り返し話し合い、確認書を交わしながら本人らしい終末期の迎え方について全員が方針を共有化している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ち、家族の気持ちを最大限尊重した上でふぁみりえでは何がどこまで出来るかをかかりつけ医等と共に話し合い、支援に取り組んでいる。看取り支援確認書を家族、主治医、職員間で交わす際に対応可能なこと、また限界があることについて充分話し合っている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新規入居に関してはケアマネ等と話し合い、体験利用や通いや泊りを一定期間利用して頂きなじみの関係の構築を図っている。、そのなかで十分な情報収集をふぁみりえ独自のアセスメントシートを使って行ったり、他のグループホームへの移動の際も相互交流を図りながら関係者間でダメージを最小限にするように配慮している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの入居者の人格や誇りを傷つけないような接し方、言葉遣い、態度、配慮を心がけているが、生活の場面場面で出来ていない部分もある。	○	日々記録等で固有名詞等を使用せざるを得ない部分もあり、理念や方針の理解を深め、全職員がプライバシーの確保についての再確認をする必要がある。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の暮らしの場面で入居者の自己意思の確認、できるだけ自己意思を引き出すような支援を行っている。	○	火曜日の夕食のメニュー決めや、日中において飲み物の選択など、入居者の自己決定を支援しやすい部分は行えているが、その日をどう過ごしたいかなど、本人から自己意思を引き出すのは難しく今後工夫していきたい。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活においても、また外出や行事への参加、アクティビティの際も、入居者のペースを最優先で考え、またその事が入居者がストレスに感じないように対応している。	○	しかしながら、常に本人主体であるかどうか点検していく必要がある。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時に洗顔や、ブラシを渡し髪を整えるよう促したり、正月や外出時やその時々によって化粧の支援をしたりと個々の入居者の好みや希望に応じながら個性を大事にしたおしゃれの支援を行っている。	○	常に出来ているか、その人らしい姿であるかという基本ケアの見直しを図っていく。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付け、米とぎなど、入居者の持っている力を活かして頂いている。また個々の入居者に応じて刻み食、とろみをつけるなど調理方法を工夫したり、量を調整するなどして提供し、職員も一緒に食卓を囲みながら楽しい食事の支援を行っている。	○	週に一回、広告などをみて入居者の方々がその日に食べたいものを買物に出かけ、調理し食べて頂くよう取り組んでいる。個々の利用者への働きかけを行い、より楽しみや力の発揮の場となるよう努力したい。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の入居者のに応じて嗜好の支援を行っている。現在タバコを吸われる入居者はおられないが、火を取り扱う為、スタッフと一緒に吸ってもらうなど、火の管理は防災マニュアルにしたがって行っている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけオムツをしなないように排泄パターンに応じた声かけをしたりトイレ誘導を行っている。オムツの種類、使用を検討して漫然とオムツになるのを避けるようにしている。また失禁時は入居者のプライバシーに配慮し、速やかに対応している。	○	便座に座る事が難しく、便座での排泄が難しい方もおられるが、できる限り便座に座って排泄ができるように工夫しながら行って行きたい。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の入居者の希望や、習慣、好みに応じた個別の入浴支援を行っている。その際は事前にバイタル測定を行って体調の確認をし、変化がある場合には看護師に相談、指示を仰いだりして入浴可否の見極めをしている。	○	入浴拒否が強くなかなか入浴出来ない入居者に関しても、入浴に変わるもの(清拭や足浴)を行ったり、こえかけの工夫を行っている。入居者自ら気持ち良く入浴したくなるような声掛け、支援をしていきたい。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	おおよその入居者の睡眠パターンは把握している。入居者が夜間眠れない場合は、温かい飲み物を提供したり、日中の過ごし方を考えながら支援している。日中の外出等で疲労が見られる場合も状態に応じて休息できるように支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の生活歴や好み、習慣などを把握しており、昔馴染みの知人を訪問したり、料理や裁縫、マージャン、書道、花道など生活の楽しみや出番作り、気晴らしが出来るよう支援をしている。	○	入居者が今までしてきた事を主にアクティビティや出番、役割作りとして行っているが、それが入居者にとってストレスにならないよう常に見極めながら取り組んでいきたい。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行によりお金を自分で管理する事が難しいため、ご家族より預かり金を預り、いつでも好きな時に欲しい物を購入できるように支援している。	○	本人が買い物をする際はできる限り支払いをしていただき、どの程度やり取りが出来るかを見極めながら見守りを行っている。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や近くの公園への散歩、地域の行事やイベント、車を使ってコンサートに出かけたり、近くの小学校の発表会へ行ったり、知人を訪問したりと、さまざまな取り組みをしている。	○	個々の利用者においてその人に応じた支援が出来るような場面作りを増やしていく。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望を聞き取り、家族と共に連絡調整を行いながら、家族行事や仏事、お墓参り、旅行、外食など出来るだけ家族も一緒に出かけられる機会作り、支援をしている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者によっては居室内に使い慣れた電話を引いており、いつでも好きな時に家族とのやりとりが出来るようにしている。また職員が家族へ書類を送るときに本人にも手紙を一筆書いてもらったりしている。	○	手紙を書きたいと思っていても目が見えづらかったり、文字を書きたくなかったり、何を書いたら良いか分からず不安である為、日頃から文字を書いたりしながらいつでも手紙をかけるよう支援していきたい。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	門扉や玄関をオープンにしいつでも気軽に来家できる様にしている。面会時間も決まっておらず、家族、友人、知人など、いつでも来て頂き、居室や共通スペースでゆっくり時には泊ったり、一緒に食事したりできるように、支援を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ふぁみりえの理念やケア方針を通じて、身体拘束をしないケアを実践している。また、ケースカンファレンスや困難なケースを検討する際も身体拘束をしないケアについて十分話し合いながら取り組んでいる。	○	ちょっとした事が身体拘束へつながること、例えばスピーチロックなどもそれにつながる事があることなどを十分理解し、会議やカンファレンス時も勉強する機会を設けている。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	アクトオブバランスという考え方をもとに、日中は玄関も窓も鍵をかけていない。ドアはドアベルの音やドアの開く音に職員は注意を払い、所在確認に努めながら、入居者には自由に出入りしてもらっている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールやキッチン内からは居室や廊下、トイレが死角となるが、見えないところであっても、入居者の行動を察知をしたり、時々居室を訪し様子を確認しながら所在確認、安全確認を行っている。	○	今後もスタッフ間で声を掛け合いながら、所在確認の徹底を行うが、入居者のプライバシーにも十分に配慮していきたい。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な包丁、洗剤等はマニュアルにしたがって管理、利用しており、所定の場所に保管している。手洗い石鹸や各居室の洗剤や刃物類は、いつでも利用できるように入居者に応じて設置したまま様子観察を行っている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時マニュアルを作成しており、必要時に対応できるよう勉強会などで知識を学んでいる。また、月に1回の防災点検、年に1回の防災訓練を行い、緊急時に職員が速やかに対応できるよう取り組んでいる。事故防止についてはヒヤリハットや事故報告書を活用し、再発防止に努めている。	○	事故防止の為、常に危険性があるという事を念頭に置き、何度も勉強できる機会をつくり日常的なトレーニングを行っていききたい。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応マニュアルや勉強会などで学び、発生時に備えている。必要に応じてミーティングなどでスタッフ間に注意を喚起したり、万が一の場合の対策について事前に示したりしている。	○	定期的に学習する機会を設け、すべての職員が落ち着いて対応できるように急変や事故発生時に備えたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、地震や火災を想定した防災訓練を行ったり、イメージ訓練をしながら入居者が安全に避難できる方法を会得している。また、災害時に地域の方に協力を得られるよう訓練にも一緒に参加してもらったり、緊急連絡網の作成などを行っている。	○	毎月15日を防災の日と定め、ミーティングの時に話し合うなど、常に防災への意識付けをスタッフに徹底している。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者一人ひとりに起こりうるリスクについて職員も共通認識し、家族にも十分説明を行って本人が安心して生活できるよう心掛けている。また必要に応じてケアプランに示している。	○	認知症の進行や日々の体調の変化によってリスクも変わる為、その都度入居者個々のリスクに対応できるようスタッフ間で話し合い、共通認識を持って対応している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的なバイタル測定はもちろん、入居者の“いつもと何かが違う”と感じる部分があった場合、他スタッフや看護職員に報告し、必要に応じて主治医へ報告相談するなど早目の対応にあたっている。	○	体調の変化や異変の発見については日頃からの継続的な様子観察が必要である。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬について確認できるよう薬情報をファイリングし、新しく処方された薬、臨時薬などは各スタッフが目的や副作用などを確認し、服用後の状態変化を注意しているが、全てのスタッフが認識理解しているとはいえない。	○	スタッフ一人一人が各入居者の薬の事について再確認する。特に新しく処方された薬は目的や副作用等について学び、入居者の健康管理を行っていきたい。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘になりやすい入居者には薬や食べ物、運動など本人に合わせて調整を行っているが、入居者全員の排便パターンをつかんでいるわけではなく、自立している入居者の便秘時には対応が遅れる事がある。	○	食事や日頃の運動にて便秘になりにくい体作りを促すとともに、入居者の排泄確認を行っていきたい。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者個々の力や習慣に応じて歯磨きや入れ歯洗浄、うがいなどを行っているが、中には口腔ケアのアプローチが難しく充分には職員が対応できていない入居者もおられる。	○	入居者の習慣、気持ちを大切にしつつも、口腔ケアの必要性を説明し、口腔ケアに取り組んで頂けるようにしていきたい。職員もどのようにアプローチをしていくか、成功例をもとに情報、ノウハウを共有し個々に応じた支援ができるように努める。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成しており、食事・水分の1日の摂取量を書き込み保存する事で把握している。入居者の食事摂取量に応じた食事量で、本人持ちのなじみの食器で提供している。必要に応じて刻み食、とろみをつけるなどをして対応している。	○	栄養士にチェックして頂いているが、定期的に見て頂けるようにしていきたい。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてはマニュアルもあり、流行時は感染対策委員会より対応策を出していただき、予防方法に従って行っている。また、手洗い、うがいの励行やインフルエンザ予防接種など予防に努めている。ノロウイルス対策も独自のマニュアルにて対応している。	○	自ら感染源にならないよう常に予防に心がけたい。また感染が予測される前から計画的な予防対策が必要だと考え、職員一人一人の感染症に対する知識の習得に努めたい。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防マニュアルにしたがって、食中毒の発生予防に努めている。特に食中毒の流行する時期は調理用具の消毒や食品の管理を徹底している。	○	ほぼ毎日まな板や台所用品の消毒を行っている。これからも食中毒予防について職員は常に学習し、発生防止に努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関近くの花壇に花を植えたり、綺麗な表札、インターフォンの利用しやすさ等で出入りしやすい雰囲気工夫している。	○	装飾品や植物などを利用し、出入りされる方が安全でかつ安心して出入りしやすいよう、また家庭的で季節感に満ちた玄関作りを工夫していきたい。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には家庭的な家具や調度品を置いたり、入居者の絵画や入居者の生けた花などをかざり、できるだけ居心地良く過ごせるよう努めている。	○	今後、季節感のあるもの(花や物など)を今まで以上に取り込んでいきたい。また、前回ご指摘のあった浴室の清掃については、毎日の入浴の終わりにお風呂掃除を行ったり、業者に入って頂いたりしているが、水質の問題からか、浴室の汚れは取れなかった。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓や台所、和室、リビング中央のソファースペースなどにて個々の入居者に合わせた、またその時の状況に合わせた居場所作りを工夫して行っている。	○	各入居者はその日の状況によりみんなで過ごしたり、一人が良かったりするため、職員は本人の様子を見ながら、その時ゆくり過ごせる場所へお誘いしながら対応している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に昔から使い慣れた家具や仏壇を持ち込んで頂いたり、旅行のお土産で買った思い出の品、写真(アルバム)など人生史や生活習慣を大切にしたいその人らしい居室作りを行っている。	○	入居者によっては居室作りが不十分な部屋もあり、今後も家族と相談しながら、混乱を招かないように配慮し、少しずつ模様替えを行っていくなどを行い、本人が居室で居心地良く過ごせるよう工夫していきたい。
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の臭いやホールの臭いなどが気になる時には換気等をこまめに行ったりして対応している。また、温度調節も入居者の状態に合わせてこまめに行っている。	○	居場所や時間による温度差なども考慮に入れ入居者が不快にならないよう対応していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや段差、浴槽、便座、手洗いの高さ、食卓テーブルと椅子など入居者の身体機能に応じて設備を整えている。	○	入居者個々の身体機能の変化を今一度点検を行い、必要に応じて見直していきたい。また、歩行に邪魔にならないようになど、家具やテーブルの位置に注意していきたい。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	壁のシミやガラス戸など、入居者の混乱や失敗の原因になれば、その都度対応し配慮している。また、居室の表札やトイレの表示、その位置など、入居者の場所の間違いや失敗がないよう工夫している。	○	入居者のその時々状況によって混乱や失敗の原因になるものがあれば、その都度スタッフ間で検討し、対応していきたい。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスで洗濯物を干したりする他、天気がいい日はお茶や食事をしたり、日向ぼっこをしたりと活用している。	○	冬の間は寒い事もありテラスの利用を生かしていきなかつたため、今後大いに活用していきたい。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設当初より、入居者やご家族と馴染みの関係をつくりながら、少しずつ信頼関係を結び”いつまでもその人らしく”人生を継続していただけるよう取り組んでいる。また、はやめ南人情ネットワークを通して、地域との関わりが深く、併設の「きてみてテラス」を活用しカレーの店を出したり、テラスへ散歩に行ったりしながら、地域住民との交流に力を入れて取り組んでいる。また、職員が認知症ケアについて学ぶ機会がおおく、他GHやさまざまな事業所との交流・連携を図っている。